

	A	B	C	D
1				＜様式11-1＞
2		令和4（2022）年度		学 童 ク ラ ブ 事 業 年 間 活 動 報 告 書
3				市原野児童館
4	生活 援 助 機 能	活動の基本目標（指針）	主 な 取 組 名	成 果 と 課 題
5				
6		安全・衛生の確保	挨拶の励行	4月に行った新入生の下校引率時に、学校から児童館へ帰ってきたら玄関先で「ただいま」と言うように伝える。すぐに身に付き、下校引率終了時にも帰館後大きな声で「ただいまー！」と言えるようになった。2年生以上も習慣化している。帰宅時も職員から「さようなら」と声をかけることを基本としており、子どもから挨拶をする子もいる。ただし一人帰りする子がどの職員にも声をかけず帰宅することがあったため、一人帰りの子には職員に必ず声をかけるよう指導を徹底していく。高学年においては、児童館内や館外活動の歩行中に地域の方と顔を合わせたら進んで「こんにちは」と挨拶をする子が多い。気持ちいい姿を認め、挨拶に対して前向きになるようにしていく。
7		健康の管理・情緒の安定	手洗い・手指の消毒	コロナ3年目のため、引き続き帰館時&おやつ前&外遊びから帰ってきた時は職員が手洗い場につき、手洗いの指導を行った。手洗い場に誰もいないときは、「手洗ひみてください」と呼ぶことも習慣になっていた。水道は3つあるが距離がとれるよう両端の水道のみ使っていたが、おやつ時や外遊びから帰ってきた時は手洗い場が密になるため、状況に応じて3つとも使っていた。コロナ感染症対策を緩和していく方向を受け、来年度の手洗い・消毒の仕方について改めて職員間で話し合うこととする。
8		基本的な生活習慣の確立	おやつ提供	放課後、または長期期間中児童で過ごす子どもたちに捕食として15:00～16:00間におやつを提供する。夜に行事がある時は、2回目の捕食として17:00以降に行った。コロナ禍のため黙食を促しており、子どもたちも静かに食べることを意識している姿があった。机を同じ一方方向に向けていたが、周りの様子が気になり横や後ろを向く子がいたり、机の高さが合わず姿勢が崩れたりする子もいたため、都度姿勢を正したり食べ方を伝えたりしていた。早食いの子には持ち帰りのおやつを渡した。賞味期限が袋に明記されていないおやつにおいては、管理不足に繋がったり持ち帰り後いつ食べるかは読めないため、来年度より持ち帰りとして渡さないこととする。
9		社会生活技術の獲得	夏休み高学年の取り組み	高学年会議で、夏休みの過ごし方について話す。低学年と場所を分け、高学年のみで過ごせる時間を確保することで、高学年の情緒の安定を図ること、また生活の中で頑張る場面をひとつ設定することで、1日の生活にメリハリが出せるような狙いとした。子どもたちからの意見として、「掃除をがんばる。高学年だけでバスケがしたい」とあり、毎日昼食後に掃除を実行してくれていた。バスケの時間は取れない日が多かったため、時間の設定に工夫が必要であった。夏休み中に高学年のみで企画を立てることもあり、高学年の位置づけがこの時期よりできてきたように思う。
10			登館時における安全指導	小学校の新入生下校指導期間に合わせ、学童児童の小学校から児童館までの通学路を職員が付き添いながら教えるとともに、道路の安全な歩き方も指導する。活発な子が多く、職員の付き添い期間終了後も長期にわたって何度かトラブル（傘でちゃんばらごっこをして壊れる/投げた石が当たった/帽子を投げ合っており人の家の中に入る/一緒に帰っていた子に先に行かれて泣く/道中にあった石や花、果実を持ち帰る/通学路と別の道を通るなど）があった。学年のカラーにもよるが、指導期間のみならず必要に応じて定期的に通学路を見守りに行ったり、小学校と連絡を取り合い子どもの所在確認を行っていく。また今年度より、通学路が一部変更となった。5月末まで写真を添えた道順を掲示し、子どもたちも覚えることができていた。不審者対応委については、都度注意喚起や指導をしていた。
11			連絡帳の提出指導	帰館時に、出席確認をしている職員に連絡帳を提出するよう伝えていたが、鞆の中から出すことを面倒くさがり「なんで出さなあかんの」と言いながら渋々出す子が多かった。鞆の中にあるが「忘れた」と言う子もいたため、忘れた子の鞆の中は職員が確認するようにしていた。職員の確認不足で連絡帳をチェックできていない時に保護者から連絡ノートに欠席等の記入があり、こちらから出欠確認の電話を入れてしまうことが何度かあったため、連絡帳の確認の徹底は今年度の課題であった。来年度よりICT導入に伴い連絡帳の利用は敬遠するため、子どもが鞆から出す手間や連絡帳の確認不足は解消されることが予想される。
12			持ち物の自己管理	水筒、帽子、靴下、タオルなどの置き忘れが多かった。帰館時に水筒を手洗い場に置いたり、部屋で靴下を脱いだり、水筒や帽子をグラウンドに持って行ったり、服につけていたタオル入れを外して置いたりした際、部屋の移り変わりに自分の持ち物をそのまま置いていくことが多かった。置き忘れている子は同じ子であることから、場面の移り変わりの際に自分の物を持っているか声をかけるようにしたり、自分で取りに行くよう促したりして対応していく。ロッカー内も荒れがちな子には個別に入れ方や持ち方を伝え指導していたが、身につくまではいかなかったため整った状態の写真を提示したりロッカーの大きさを変えたりなどの工夫が必要である。
13			整理整頓・道具、遊具の片づけ指導	昨年度に引き続き、コロナ禍で閉館後に消毒&噴霧をしていたため、使用したおもちゃは”使用済みBOX”に入れるように伝えていた。ほとんどの子が入れることができていた。自分で使っていた机の消毒&片づけも徹底できるよう声をかけていたことで、子どもたち同士でも「消毒してへんかったで」「机片づけや」など言葉をかける姿があった。重い机を片づけることにめんどくさがる子も多かったが、児童館でみんなが気持ちよく過ごせるために、自分の物は自分で出し、片づけることが身に付けられるようにしていく。職員は積極的に手を貸しながら片づけ方を指導していく。また、グラウンドで使ったをじょうろやバケツ、スコップなどの道具をそのままにすることが多かった。地域の方も使用するため、使い終わったあとは職員に返すように繰り返し伝えていく。
14			学習の習慣化	宿題をする時間は自分で決めて取り組めるようにしており、児童館内でのイベントや取り組みがある日はホワイトボードに提示し、計画が立てられるようにしている。低学年は時間感覚が掴み切れていないため、宿題をする気があっても先に遊んでしまい、迎える時間に間に合わずに困ってしまう子が一定数いた。学童で宿題をする予定の子には、おやつ後、または17時から取り組めるよう個々に声をかけることで習慣化できるようにしていく。高学年においては、前年度「学童で宿題をする時間がない」という声があったことを受け今年度は会議を減らすなどしたことで、自由に使える時間と取り組みをする時間とのバランスが前年度より取れていたように思う。来年度も取り組みの回数は負担とならないような範囲に留められるようにしていく。
15			長期休暇中の学習の時間	朝9:00～9:45の時間を学習の時間とした。部屋分けはこちらで決めず、子どもたちに「班か学年、どちらで分かれたいか？」を尋ね、全員「学年がいい」という意見があり、学年ごとに分かれて行った。子どもたちが見通しを持って過ごせるよう毎日部屋替えはせず、1週間ごとのくじ引きで行うこととした。鉛筆を削りに何度も部屋の出入りがあったため、各部屋に鉛筆削りを置いたことで解消した。1年目の職員が3名おり、夏休みのタイムスケジュールに職員側が慣れておらず、変更点にも対応しきれなかった。抜けがないよう、見えるところに帰りの会の内容を掲示しておき職員同士で共有しておくなど工夫が必要であった。

	A	B	C	D
16			長期休暇中の午睡	遊戯室はシアタールームとし、育成室はお昼寝をしたい人のために暗くして横になれる場所にした。大半が3年生以上の女子で、常に4、5人くらいが入り部屋の端の離れて寝ていた。場に慣れてくるとこそこそと話したり、笑ったりしながらだんだんとうるさくなっていた。落ち着いて身体を休められるように伝えていく。
17			当番活動	今年度もコロナ感染拡大防止のため、当番活動は帰りの会のみ行なった。子どもたちの意見より「毎日班でまわしたい」とあったため、運動クラブの水曜日のをぞいた曜日に班で司会進行を行った。後期からは高学年のみの帰りの会の時間を設けていたが、低学年のみの帰りの会では3年生がしっかりとする姿がみられた。
18				
19		生活体験の拡大	新入生歓迎会	遊戯室で新入生に自己紹介をしてもらったあと、グラウンドで【あいさつじゃんけん列車】【ボール運びリレー】【ケイドロ】をして楽しむ。名前と顔を紹介し合いながら、全員で一緒に遊べる機会となった。グラウンドが滑りやすくなっており、転んで怪我をしてしまう子が多かった。水をまくなどして防止につなげる。
20		社会性の養成	入会式準備	3年生に声をかけ、”入会を祝おう会議”と称して行う。学童クラブの紹介したいことを次々に出し合う。会議をしていると高学年も寄ってきて一緒に文章を考えた。高学年は、入会式で新入生にプレゼントする”キャラクターのプラバン”作りも行った。高学年にやる気がある子が多く、活躍の場を広げられるようにしていく。入会式リハーサルは45分間行う。子どもたちの集中力も含めちょうどよい時間となった。入会式の準備や内容を詳しく知っている職員が1人しかいなかったため、来年度は記録をもとに行っていく。
21		自立の促進と自主性の尊重	入会式	リハーサル通りに行うことができた。新入生は座ることが苦手な子が多く、座布団マットの上をクルクル回ったり、手持無沙汰でマットの端っこをちぎったり、隣の子とおしゃべりをしたりと騒がしい様子であった。前方、後方に職員が位置していたため、迅速に対応することができよかった。
22			お誕生会	今年度の職員からの誕生日プレゼントは、写真入りマスクケースとパスデーカード（手書き）を渡した。写真をシールにして印刷することと、パスデーカードを手作りする手間はあったが、作成が間に合わないことはなくお誕生会の時にプレゼントすることができた。来年度の誕生日プレゼントを考えていく。会については、友達のお誕生日を意識している子どもたちの姿から子ども司会者をする場を作り、班活動として子どもたちが誕生会の企画と準備を行えるようにした。お誕生日を祝う気持ちもあり、前に立つ機会もあってよかったが、企画と準備として”班会議”を行うことに抵抗を示す傾向にあった。実行してみると楽しめてはいたが当日プレッシャーに感じる子もいるため、企画と準備は職員が有志の子が進め、当日の子ども司会者を担ってもらう形や、前年度のように帰りの会でお祝いする形、月1ではなく誕生日の会にみんなでお祝いする（漏れないよう、ホワイトボードにもその日の予定として書いていく。）形にするなど、お誕生会の形を変えていく。
23			班会議	2、3年前は班会議を行っておらず、前年度より班会議を開いた。前年度は班でしたいことを決めており各班週に1回は自分たちの取り組みをする状態であったが、今年度はお誕生会に向けた取り組みのみであったため、負担は軽減されていた。職員が会議内容を話したり進行したりする際は、低学年にも分かりやすく伝えていけるよう意識する。また集中力が欠けやすい子を職員間で共有し、会議中は補佐の職員が付き参加しやすいようさりげなくサポートしていく。会議中は高学年の意見が出やすく通りがちになるが、低学年の声を聞いたりメンバーの意見をまとめる姿勢を認めていき、縦の役割が意識づけられるようにしていきたい。児童館の行事に向けての取り組みやクラブ活動があり、班会議をする日を設けることが厳しい月もあった。学童事業と自由来館事業とのよいバランスを見つけていきたい。
24			全体班会議	大きな行事（こどもまつりや親子お楽しみ会など）や修了制作の取り組みについて都度全体班会議を行い、案出しなど各班で取り組んだ。行事について周知したり取り組んだりすることで、子どもも行事に参加している実感を持つことができた。また前期のはじめとおわり、班替え後の後期のはじめとおわりにレクリエーションを行い、班メンバーの親睦を深められるようにした。あそぶことが好きなためゲームは喜んでいたが、”会議”で集まることに抵抗を感じる子もいた。来年度は子どもたちの様子をみて進めていく。
25			3年生会議	前年度は”みんなあそび（月1）”を3年生が考えていたが、今年度は”あそびバ！”として低学年クラブが考えてくれていたので、定期的な3年生会議は撤廃した。定期的に集まらないことで”3年生”としての学童での出番は少なく横のつながりで交流を深められる機会は減ったが、放課後の自由な時間が前年度より確保されていた。班会議や低学年クラブで”班長”と位置付けられたことや行事ごとに開いた会議、今までの3年生の位置づけを知っていることから”3年生は学童のリーダー”としての認識はしているようだった。今年度は”3年生会議”自体しない予定で始まったが、行事ごと（夏休みお楽しみ昼食会/親子お楽しみ会キヤンファイヤ/思い出遠足）に集まる機会があり”3年生会議”をすることとなったため、来年度は行事ごとに集まる前提で組んでいく。
26	子ども育成機能		高学年会議	前年度は月に一度の会議で学童全体のことを考えるために行っていたが、今年度は行事ごと（夏休みお楽しみ昼食会/親子お楽しみ会キヤンファイヤ）の会議を開いたり、夏休みの過ごし方や班替えなど高学年に意見を求めるために必要に応じて高学年会議を開いた。前年度は宿題がしたくて会議を嫌がることがあったが、今年度は定期的な会議がなかったことにより宿題と会議のバランスが保てていた。3年生会議同様行事ごとに集まることと、高学年の意見を述べる場を設けるため”高学年会議”を継続していく。前年度に引き続き帰ってくる時間が遅いので、学校の授業や部活動の時間などを考慮して会議の日程を決めるようにする。
27			お楽しみ昼食会準備	こちらが何店舗かピックアップし、3年生会議でどれがよいか話し合ってもらった。多数決でくら寿司となり、人気単品メニューを子どもたちと10種類選んだ。3年生は準備として各ネタ担当のポップを作成した。オーダーした寿司の分配が難しかったため、寿司を注文する際は1人1枚自分のオーダーカードを持っておくなど前日までに準備ができていればよかった。前日になり欠席の予定だった子が出席すると連絡を受けたことで、店舗に注文数の変更を電話したところ「注文がとれていない」との返答があった。数日前に電話で注文をしていたが、再度注文を直した。今回はたまたま注文数の変動があり店舗に前日連絡をしたことで注文ができていなかったことに気づけたが、何もなくとも店舗へ前日注文確認の電話をしておくといい。
28			夏休みお楽しみ昼食会	3年生が作成したポップは当日自分の担当の机に貼ることができ、分かりやすかった。当日のシュミレーションをしきれていなかったため、当日の動きを念入りに確認して予想を立てる必要がある。混乱はあったが機嫌よく満足感がみられた昼食会であり、夏休みの思い出といえば「お寿司を食べた」という子も多かった。ねらいとしていた”夏休みの思い出作り”は達成できたように思う。来年度も子どもたちの意見を聞きながら企画していく。

	A	B	C	D
29		夏休みお楽しみ企画		ゲームのみの予定だったが、職員と話ししていく中でストーリー仕立てとなり、”お礼さがし”を行った。“低学年を驚かせたい”と共通目的を持つことで団結力も高まったように思う。予定では当日の準備時間を設けていたが、「やりたい」と全員が言ったことで、朝から開始時間まで遊ばずに準備を行っていた。高学年はみんなで低学年の前に立ち、ゲームやクジ決めの説明をしたり、終了後は低学年に感想や拍手などリアクションをもらったことで、やりがいが達成感を感じられたように思う。高学年のみで反省会を行い、「頑張った」との声が多かった。振り返ることで、改めて自分を認められることができたように思う。高学年という立場から、“低学年を泣かせたい”という発言もあった。やる気があった発言だが、自分たちのことだけでなく低学年の気持ちを考えられるよう指導していく機会でもあった。高学年年りの複雑な感情の中で、低学年への思いやりを芽生えさせていけるようにする。
30		修了制作		子どもたち同意のもと今年度は”記念品パズル”を制作した。班活動とし、それぞれの班で行事や生活面などの思い出や自分の似顔絵を1つずつB5の用紙に描き、職員がパソコンで1枚の絵に編集し合わせたものを発注した。年度末ということもあり、職員が事務作業の時間が取りづらく発注までに時間が要してしまったため、来年度は手間と時間がかからない記念品づくりを考えていく。
31		3年生思い出遠足		当日までに会議を重ね、行き先やタイムスケジュール、昼食など子どもたちの意見を盛り込んだ活動となった。コロナ感染症状況により、日時や行き先の変更もあったが、無事に実行することができた。1日の目標として、”なかあった時はみんなで解決する”を決めていく。4人のみの参加であったが、意見が分かれた時は都度話し合い案を出したり意見をすり合わせたりして決めることができていた。3年生の参加人数が少ない現状を受け、来年度は”みんな遠足”として思い出遠足に出かけることとする。
32		お別れ会		お別れ会には退会生1名出席。表彰状を渡し、退会生からみんなにメッセージを読み、みんなからも退会生にメッセージがある子は筆手制で伝えていた。音楽が流れるとなおよかった。
33		修了式		修了式では、職員の着替えが間に合わず16:15からのスタートとなった。修了式1名、出席予定ではなかったが、16時過ぎに荷物を取りに来館した際声をかけ出席となった。個別支援が必要な児童がうずくまったりおしゃべりをしたりしてしまい、後ろの職員の近くに席を移動した。修了生は少し緊張した様子ながらも、リハーサル通りに前に立つことができていた。保護者からのメッセージを頂いたり、保護者会会長よりお祝いの言葉をいただいたりし、17:00終了となった。コロナ禍ということもあり一番広い部屋の交流室で行っていたが、「固い印象だった」という保護者の声もあり、来年度は遊戯室で柔らかい雰囲気のもと行えるように思索していく。
34		2年生会議		修了式の時に修了生へ贈る祝いの言葉を考えた。それぞれに修了生との思い出を振り返ったり退会後に向けたメッセージを言葉にしていた。どんな3年生になりたいかも話す予定であったが、会議から解放されたが様子を受けてせず。
35				
36	子育てに必要な情報の提供	保護者懇談会		コロナ感染症状況に応じ、二部制にするなどして対応する。春頃、アンケート機能を使って保護者に”どの曜日&時間帯が参加しやすいか?”を伺い、一番多かった金曜日夜に開催した。スライドショーを取り入れた子どもの様子や、懇談会後に子どもたちと一緒に遊べる親子企画を設けることで一定数の参加人数が得られた。来年度も工夫しながら参加人数を確保していく。
37	子育ての仲間づくり	個人懇談		前年度は全家庭対象に行ったが、今年度は5月(1年生のみ対象)と12月(希望者のみ対象)で行った。2回とも一斉メール連絡網より配信し、アンケート機能より出欠をとった。希望者のみで行ったことにより、普段あまり話せなかった保護者ともゆっくり話す機会を設けることができた。引き続きコロナ感染症対策の為お迎え時玄関での引き渡しは3年目となっており、家庭での姿や学校での様子など聞いたり児童館での様子を話せたりできる良い機会なので、時間が足りない事もあった。
38	子育てを支えるネットワークの形成	親子お楽しみ会		8月、12月と2回予定していたが、8月はコロナ感染症が拡大していた状況を受け中止とした。12月の開催では、コロナ前に行っていたキャンプの一部である”キャンプファイヤー”を行った。また3年生企画や高学年企画、サンタのサプライズ登場も盛り込み、後日「冬の夜にするキャンプファイヤーも新鮮でした」との声を頂けた。
39		入会説明会		夜に開催する。1世帯をのぞいた参加となり、出席率がよかった。入会説明前には、来年度より利用予定のアプリについての説明会も行った。
40		連絡帳の活用		出欠確認やお迎えの時間変更等が主な連絡事項となった。来年度からアプリでのやりとりが主となるため、出欠連絡やお迎えの時間変更、おたより配信はアプリを介して行う予定である。これまでは行事申込書を連絡袋の中に入れて持ってきていたが、今後連絡袋と連絡ノートともに撤廃されたらどのように行事申込み書を持ってくるか検討する。連絡帳を忘れた子から「帰る方や時間に変更がある」との訴えがあれば、必ず保護者に連絡するようにしていた。来年度からのアプリでも漏れなく対応していけるよう、徹底していく。コロナ感染症対策で迎え時保護者と話す機会が減り子どもの様子の伝わりにくさがあるため、子どもの様子や変化など気が付いたことがあればアプリを活用して伝えていけるか、業務時間の兼ね合いをみながら模索する。
41		おたよりの発行&配布		前年度から連絡袋に入れて渡すようにしていたが、今年度は同じく配布するとともに、10月から一斉メール連絡網でも配信した。データ配信により、掲載写真をカラーでみることができた欠席した子のおたよりを保管場所に入れていたが、渡し忘れから配布が遅くなることもあった。受付担当はおたよりが残っていないか必ず確認をし、配布忘れがないよう申し送りを徹底する。来年度よりアプリのみで配信予定。
42		健康チェックシート		前年度と同じく、土曜日のチェックシートは日付で記入してもらう形にした。長期休暇の利用は日付を入れたシートを配布した。現在は連絡袋にシートを入れて持ってきてもらっていたが、来年度よりアプリを導入することとなり、どのような形で持ってきてもらうか検討中。

令和4(2022)年学童クラブ事業年間活動報告書

市原野児童館

行事名	実施回数	学童クラブ児童						登録外児童		ボランティア			その他	合計	内容
		1年	2年	3年	4年	5年	6年	1~3年	4~6年	中高生	大学生	大人			
生活援助機能															
挨拶の励行	12	125	108	71	40	48	37							429	登下館時、食事・おやつ前後、帰りの会等で必ず行う。
手洗い・手指の消毒	12	125	108	71	40	48	37							429	コロナ感染症対策として職員に声かけをして、職員が見守りながら行う。
おやつ提供	12	125	108	71	40	48	37							429	コロナ感染症対策として部屋を分ける、時間差をつける、同じ方向を向いての黙食を徹底。また、果物や季節のメニューも提供する。
夏休み高学年の取り組み	1				4	4	4							12	長期期間の休みの昼食後の掃除を毎日行う。高学年の時間の確保として時間の取れる時にバスケットボールをした。
子ども育成機能															
新入生歓迎会	1	11	5	6	2	3	1							28	新入生との交流を目的に自己紹介も盛り込んだみんな遊びを行う。
入会式準備	3	9	8	19	5	4	3							48	3年生が新1年生に好きなキャラクターを調査、高学年がプレゼントをするプラ板を製作する。
入会式	1	10	3	8	2	4	2						10	39	新入生の紹介。在館児からお祝いの言葉とプレゼントを渡す。
班会議	42	79	50	31	17	23	12							212	班長、副班長を決め、班の名前を考えた。誕生会の時には班でお祝いする方法を話し合う。また班独自の活動について話し合う。
お誕生会	12	113	63	52	21	26	20						1	296	毎月第3木曜日にお誕生会を実施。誕生会までに担当の班が進行について話し合い、当日の司会、プレゼントなどを決める。
全体班会議	10	86	38	28	14	14	12							192	大型企画についての話し合い、また修了製作の時は班ごとに思い出の絵や似顔絵を描いた。
3年生会議	14			45										45	「おたのしみ昼食会」「親子お楽しみ会」「思い出遠足」について話し合い分担を決めた。
高学年会議	14				23	28	22							73	高学年としての役割や自分たちの目標を話し合ったり、帰りの会を高学年だけで行い、おやつメニュー決め、学童クラブのおたよりと一緒に「児童館タイムス」を発行。
お楽しみ昼食会準備	2			11										11	3年生が役割分担し、メニューを決め、事前に注文を聞いた。
夏休みお楽しみ昼食会	1	8	6	8	1	4	2							29	3年生がメニュー決め、みんなで食べる。お寿司屋さんの店員を手分けして行い、みんなで楽しく昼食を食べた。コロナ感染防止のため部屋を分け、同じ方向を向いて食べた。
夏休みお楽しみ企画	1	8	6	8	1	4	2							29	高学年が企画を考え、会議や準備をし、「肝試し」を行う。当日は、誘導したり、怖い話をしたり、脅かしたりなどの役割分担をし、こわがる子にも配慮しながら行う。
修了制作	4	19	8	3	2	1	1							34	みんなで遊べるように「思い出バスル」製作。班ごとに思い出の絵や友だちの似顔絵を入れた。
3年生思い出遠足	1			4										4	自分達で作った「しおり」もとに、『宝ヶ池こどもの楽園』で遊具遊び、お昼にはみんなのリクエストでもあるマックのランチを食べ、宝ヶ池でボートに乗ったり、鯉にエサをやったりして、一日中みんなで楽しむことが出来た。
お別れ会	1	9	7	3		3			1	1				24	学童クラブのみんなが見守る中、1、2年生の修了生を対象に修了証書を渡してお別れの言葉をもらう。
修了式	1	9	7	3		4	1		1	1			6	32	保護者会長や修了生、修了生保護者へ出席してもらい3年生以上の修了生を送り出す。
2年生会議	2		11											11	修了式で修了生に贈る言葉を考えてたり、入会式でのお祝いの言葉を考えてたり、プレゼントを渡す役割について話し合う。

子育て支援機能															
第一回保護者懇談会	1												18	18	今年度の学童クラブの活動の内容説明と新年度の子どもたちの様子の共有。
個人懇談会（1年生のみ）	1												11	11	1年生の保護者を対象に1家庭15分に時間を設定し、児童館、学校、家庭の様子を伝えあう。
第二回保護者懇談会	1	2											18	20	子どもたちの様子をスライドで説明。夏休みの過ごし方についての案内をする。
第三回保護者懇談会&親子お楽	1	10	7	3	3	4							34	61	子どもたちの様子をスライドで説明。冬休みの過ごし方についての案内をする。第2部ではキャンプファイヤーやゲームを子どもたちと考え、楽しく過ごす。
個人懇談（希望者のみ）	4								1				7	8	希望した保護者を対象に1家庭15分程度で最近の様子について共有する。
登録前説明会	1												5	5	学童クラブの登録を考えている保護者に参加してもらい、申請についての説明を行う。
入会説明会	1												10	10	新規に学童クラブに登録された家庭を対象に、学童クラブの生活・目標・活動内容・費用についての説明をし、その後質疑応答を受け付けよう。
第四回保護者懇談会	1												18	18	来年度より導入されている新システムについての説明と子どもたちの様子、今後の予定を案内する。

*注1 行事名は、（1）生活援助機能 （2）子ども育成機能 （3）子育て支援機能に分類して記入すること
*注2 2クラス以上の館所で、クラスごとに異なる取組・行事を実施した場合は、行事名と併せて、クラス名を記入すること